

中村設計新聞

第三十九号

一月二十一日(土)晴

一月の土曜研修は、一年の初めを大笑いでスタートし「福を呼び込もう」をコンセプトに土曜研修を実施しました。

○はじめに

今回の土曜研修は、よしもと祇園花月に行きました。一年の初めを笑って過ごそうということで、漫才・落語・新喜劇を観賞しました。

出演者：女と男

フアマリーレストラン

博多華丸・大吉

チュートリアル

桂きん枝

新喜劇：内場勝則

池乃めだか他



よしもと祇園花月外観

○祇園会館について

一九五八年に開館した祇園会館は、開館当初から残されているタイトルの壁画があり、外観上の特徴となっています。

以前は映画館として運営されており、昭和のレトロなスタイルを保ち続けた名画座でした。二〇一一年によしもと祇園花月の公演が始まり、映画は平日のみの上映となり、その後、二〇一二年三月に映画上映を終了しました。

現在では吉本興業が運営し、演芸が行われるほか、毎年十一月に行われる祇園をどりの開催地となっています。

○よしもと祇園花月について

京都市中京区の新京極に京都花月劇場を運営していたが一九八七年に閉館しました。その後再び常設劇場を京都にこの機運が高まり、祇園花月を設けるに至りました。客席数は五〇二席で、テレビ番組などで知名度の高い芸人や、東京吉本所属の芸人も登場しています。



○体験レポート

吉本祇園花月にて

吉本祇園花月は、これまで映画館だった劇場スペースを利用し、よしもとの演劇場として平成二十三年五月三日プレオープンし同年七月十五日に開場しました。

吉本の劇場としてはまだ歴史は浅いですが、元々映画館だった為レトロな雰囲気、昭和にタイムスリップした気分になりました。

劇場で吉本の芸人さんの漫才・落語新喜劇を観賞し、所員一同しっかり楽しんでいました。

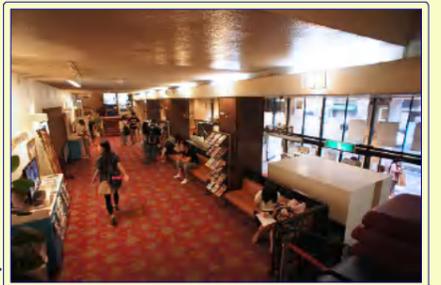
出演されていた芸人さんの中で特に私は「女と男」が印象に残りました。いつもテレビ等で和田さん(女性)が「もういいかい？わくだだよ！」というネタを披露しており、今回の劇場での漫才でも披露され、現物を見て大変嬉しかったです。

今まで現物の芸人さん等を、街で見かける事は何度かありましたが実際に劇場で見るのは初めてだったので、また観に行きたいと思いました。

法心 武



「女と男」



ロビー



↑謎の置物？



←客席

まとめ

今回の土曜研修では、漫才・落語新喜劇を観賞し、所員一同楽しむことができました。

関西出身の芸人さんや、滋賀県住みます芸人など、関西に縁のある芸人さんたちが登場しました。漫才でも地元ネタなどで会場が笑いの渦に巻き込まれました。

演芸を劇場で観るのが初めての所員も多く、会場の雰囲気、圧迫感に圧倒されてしまいました。芸人さんの人を惹きつける話の運び方は、とても勉強になりました。